

音楽科学習指導案

児童 京極小学校4年1組 24名

指導者

日時 2006年9月15日(金) 2校時音楽室

1 題材

「曲の感じをとらえて」

2 題材について

本題材では、楽曲のもつ感じや流れの変化を感じ取り、その楽曲に合った歌い方や演奏の工夫をすることをねらいとしている。

「ゆかいに歩けば」では、はずんで歌う部分やレガートで歌う部分などの楽曲の変化に気をつけながら、思わず歩き出したくなるような気分で楽しく歌えるように指導していきたい。

「ラ クンパルシータ」では、スタッカートやクレシェンド、デクレシェンドなどの記号に適した表現で演奏することが大切であることに気づかせるとともに、十分に時間をとって練習することで一人ひとりが自信をもち、楽器の音を大きく出すことで力強く演奏させたい。

3 学級の実態

4年1組の児童は音楽の時間を楽しみにしており、音楽科に対するアンケートでは、多くの児童が音楽の時間が好きと回答している。合唱では、朝の会においても歌う機会があるが、音楽の学習時間同様に曲想に合った歌い方が不十分であるように感じられる。情景や音楽記号などに気をつけながら曲想に合った歌い方ができるようにしていきたい。

楽器演奏では、難しい曲でもリコーダーで演奏できるようになってきている。ここでは、曲想に合った演奏に注意させ、十分に練習して自信をもって大きな音で、友達と協力して一つの曲を完成させる経験をさせたい。

4 教材の目標

- ・楽曲の感じをとらえて、楽曲の感じに合った歌い方や演奏を工夫する。
- ・音楽の特徴やよさを感じ取り、いろいろな表現を楽しむ。

5 教材

- ・ゆかいに歩けば
- ・ラ クンパルシータ

6 評価規準

題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
題材の評価規準	楽曲の特徴に関心をもち、曲想を感じ取って、表現に生かそうとしている。	楽曲の特徴や曲想をつかみ、楽曲にあった歌い方や演奏の仕方を工夫している。	リズム、旋律や新出の記号を確認し、それを生かして歌ったり、楽器で演奏したりしている。
学習活動における具体的評価規準	①楽曲の特徴や曲想をとらえ、その表現のために意欲的に取り組んでいる。 ②担当の楽器を意欲的に練習し、友達と協力して合奏（演奏）している。	①ふしの感じに合う表現の方法を工夫し歌っている。 ②ふしの流れの受け渡しを感じ、リズムにのって互いに聴き合いながら演奏している。 ③いろいろな記号を生かした表現や演奏の仕方を工夫している。	①楽曲の変化に応じて、スタッカートやレガートの歌い方で演奏している。 ②シャープやナチュラルの記号について理解するとともに、スタッカートやクレシェンドなどの記号に適した表現で演奏している。

7 学習展開計画 6時間扱い

次	時	○主な学習活動 ・学習内容 △教師のかかわり	評価の項目	評価の方法
ねらい：ふしの感じに合った歌い方を工夫し、表現する。				
第一次	第一時	<p>○「ゆかいに歩けば」の範唱を聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の流れをつかむ ・楽曲の特徴をつかむ <p>△はずんで歌う部分やレガートで歌う部分など楽曲の感じの変化に気づくようにする</p>	アー①	聴いている時の様子、顔の表情、体の動き等の観察
		<p>○「ゆかいに歩けば」の主旋律を歌う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムにのって歌う ・スタッカートの歌い方に注意する ・「バルデリー」や「ロホホホ・・・」の音程に気をつけて歌う <p>△スタッカートの意味を理解し、歌い方を工夫するようにする</p> <p>○アルトのパートを覚える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後半のアルトのパートを覚える <p>△発声に気をつけて歌い、特に低い音の発声に気をつけさせる</p>	ウー①	発声の仕方、曲想に合った体の動き、顔の表情などの観察
	第二時	<p>○二部合唱をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの声をよく聴き合って合わせる ・楽曲の前半と後半の違いを感じながら練習する ・はずんだ感じで歌うスタッカートの部分や、なめらかに歌う部分などを理解して歌う <p>△各パートの声のバランスに気をつけて歌うようにさせる</p> <p>△スタッカートや強弱などの表現の工夫をさせるようにする</p> <p>○「ゆかいに歩けば」の二部合唱にオブリガートを入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱の大きさに適した楽器や演奏する人数を考える ・オブリガートに適した人数や合う楽器を考え、実際に声や音を入れて試し、合うものを選ぶ <p>△オブリガートに使う楽器は、リコーダー、鉄琴、木琴とする</p> <p>○合唱奏を楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合わせて演奏する 	イー③ イー①	歌っている時の様子や表情 発声の仕方演奏の様子顔の表情、体の動きなどの観察 プリント

ねらい：ふしの流れを感じ、いろいろな記号に合った表現を工夫しながら合奏する。スタッカート、シャープ、ナチュラル、クレシェンド、デクレシェンドについて表現と関連して理解する。

第二次	第三時	<p>○「ラ クンパルシータ」の楽曲の感じをとらえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範奏を聴いてイメージをもつ ・ アとイの部分で楽曲の感じが変わることを知る ・ 楽譜を見ながら、記号の意味を理解する ・ 1と2のパート（主なふし）を鍵盤楽器で練習する ・ シャープのついた音の位置を覚える ・ ふしの流れが1から2へと受け渡されていることを知るとともに、1と2の旋律の感じが違うことに気づく <p>△範奏を聴いて曲のイメージをもたせる △シャープの位置と鍵盤の位置に注意させる</p>	<p>アー①</p> <p>ウー②</p>	<p>聴いている様子、顔の表情、体の動きの観察など</p> <p>演奏の仕方、練習の様子の観察</p>
	第四時	<p>○「ラ クンパルシータ」のそれぞれのパートの奏法を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダー、木琴、低音楽器の楽譜について理解し、奏法を確認する ・ 担当の楽器を選び、それぞれのパートを練習する ・ スタッカートやシャープのついたソの奏法、全休符などの記号について注意して演奏する <p>△練習に入る前にリズムや休符、楽譜の読み方などについて確認する △シャープのついたソの奏法について確認する △グループで協力しながら練習をすすめるように助言する</p>	<p>ウー②</p>	<p>演奏の様子、顔の表情の観察</p>
	第五時 本時	<p>○「ラ クンパルシータ」のパートの練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リズム伴奏パートも入れる ・ 繰り返し記号の意味を知る ・ クレシェンドとデクレシェンドについて知る <p>△前時の記号や奏法について確認する △クレシェンドとデクレシェンドについて記号を知り奏法の方法を理解するようにする</p> <p>○「ラ クンパルシータ」の合奏をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに音を聴き、速さに注意して合わせる ・ 音のバランスに気をつけながら演奏する ・ スタッカートやクレシェンドなどの記号に合った表現を工夫して演奏する <p>△各パートごとに演奏し、自分のパートと比べながら聴くようにする △友達の演奏のよさを自分の演奏に生かすように助言する</p>	<p>アー②</p> <p>イー②</p>	<p>演奏の様子 顔の表情の観察</p> <p>演奏の様子 顔の表情の観察</p>

第六時	<p>○「ラ　クンパルシータ」の合奏を仕上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各記号の意味を確認し、強弱などを演奏に生かすようにする ・互いに音を聴き、速さや音のバランスに気をつけながら演奏する <p>△前時までに学習したことを演奏に生かすようにする</p> <p>△他のパートの音もよく聴き合わせるように声をかける</p>	<p>イー③</p> <p>アー②</p>	<p>話し合いの様子や発表・発言の観察</p> <p>演奏の様子、顔の表情の観察</p>
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------	-------------------------------------------------

8 本時の目標

- ・ふしの流れを感じ、いろいろな記号に合った表現を工夫しながら合奏する。

	主な学習活動	教師の支援	留意点
興味をもつ 5分	○記号や奏法について確認する	シャープ、ナチュラル、スタッカート、繰り返しの記号について想起させるとともに、ここでは、クレシェンド・デクレシェンドについて主に確認する。	自分の演奏をさらに良くしようという意識をもたせる。 (視点1)
	めあて 記号に注意して、気持ちを合わせて演奏しよう		
深める 30分	○「ラ クンパルシータ」のパート練習を行う。 ・「鍵盤ハーモニカ・低音」「笛・木琴」「大太鼓・小太鼓」に分かれて練習する ○「鍵盤ハーモニカ・低音」グループが演奏する ・他のグループが感想を発表する ○「笛・木琴」グループが演奏する ・他のグループが感想を発表する ○「大太鼓・小太鼓」グループが演奏する ・他のグループが感想を発表する	各パートを回って、練習している子ども一人ひとりの様子を見て回り、観察する。(ア②)	各パートが練習しやすいように他のパートから練習場所を離すようにする(視点2) 「木琴・笛」グループ (吉田)
広げる 10分	○合奏をする ○めあてをふり返る	合奏している時の演奏の様子(体の動きなど)や顔の表情について観察する。(イ②)	活動したことをふり返る(視点③)

9 本時の評価

- ・ふしに流れを感じ、いろいろな記号に合った表現を工夫しながら合奏できていたか。

ア②

Aと判断するキーワード

繰り返し練習している (友達に教えている 協力(相談)している)

Cと判断される児童への働きかけ

音を出す場所を一つ一つ一緒に確認して、練習する

イー②

Aと判断するキーワード

他のパートの音も聴いて演奏している(大きな音で演奏している記号に合った演奏をしている)

Cと判断される児童への働きかけ

4分の3拍子であることを確認して、音を出すタイミングを指示してあげる